

ひまわり からの メッセージ

2 号

2011. 5. 10
西濃圏域
発達支援センター
ひまわり

発行人: 中野:みこ

車中で

考えさせられたこと



連休の三日間、大阪まで研修に出かけました。

この齡になって新しく聞くことも多くあり、昔習ったことを復習させていただくこともあって、結構楽しい時間をすごすことができました。

目的以外にも、途中の車中からながめる風景に、心安らぐ時間があることが私にとっては大切なことです。

岐阜県から滋賀に入ると目につくのは、紅殻が塗られた家々の柱です。伊吹山の近くには酸化鉄が多く産し、遠く土庫の乱に岐阜と滋賀の県境に史跡が残るのも、一つには武器となる酸化鉄の入手が必要であったからだと聞いたことがあります。山々に目を移すと、山腹には萌黄色の木々の間に白い花が咲

いています。季節は春から夏に移ろうとしていることを感じながら車窓からながめていると、水田が広がってきます。以前に見た時は、枯れ草がつづいていたのに、いつの間にか冬が去り桜が咲き、葉桜となって、田植えの季節が近づいてきているのだなあ……と、ゆとりのない日々を送ってきたことを今更ながら思い知らされたことでした。

車中、一組の親子に出会いました。どこかに遊びに行くのでしょうか。でも、座ったとたんに、お父さんもお母さんも携帯電話でメールを始めました。お子さんがお母さんに「ねえ……」と話しかけると、お母さんはお子さんを全く見ず、携帯の画面に目を向けたまま「なに?」と面倒くさそうに応えました。それきり、親子の会話はなく時間は過ぎていきました。この親子は日常生活でもこんな感じなのだろうか? この子は大きくなってどんな子になっていくのだろうか? 一、二年生くらいに見えるその子を抱きしめてあげたい衝動にかられました。親と子の絆は、親と子が向き合い、気持ちも共感し合う中で作られていくものではないのだろうか……。いろいろな意味で考えさせられた車中でした。



災害の時わが子は？

四月のセンター親の会例会では、災害について考えました。東北でおきた大震災は、決して

他岸の火事ではありません。被災した方々の心の傷は、命が助かったこと以上に重くのしかか

っているに違いありません。

そして子どもたちは……？、

例会では、お母さんたちに、自分のお子さんが被災した時にどうなるか、想定していただきました。そして、事前にどんな対策がとれるかを皆で考えてみました。

①もし学校で被害したら……？、（複数回答）

先生の指示に従って行動できると思う。 七名

周りも見えて行動すると思う。 一名

先生にくっついて離れないと思う。 二名

ぼう然としたり固まって動けないと思う。 九名

泣き叫ぶと思う。 二名

物が落ちてきて喜ぶと思う。 一名

②お母さんはどうしますか？、

まず身の安全をはかる

がス等を止める

何もできないかも？、

避難所へ行く

↓ 学校へ向かう

③避難所ではどんな行動をとるか？、

①家族が一緒の場合

親の言うことに従う。親にくっついていと思う。

最初はおとなしくしているが、徐々にぐずり出す。

「おなかすいた。」「家に帰ろう。」「など

多弁、多動になると思う。質問せぬ

友だち、兄弟とふざけると思う。

②家族がいながら、知人、友だちがいる場合

知り合い、子どもがいれば大丈夫で近くにいます。

事の重大さに気がかす。ふざけている。

オロオロして泣きつづける。しつこく聞く。

一人で母を探しに行ってしまう。



十三名

一名

一名

五名

七名

三名

三名

五名

二名

三名

一名

③ 知り合いがいない場合

- ・ すぐ良い子にしていると思う。
- ・ ただ動けず何もできない。
- ・ どうしていいかわからずウロウロする。泣く。
- ・ 「みんなどこ？」と質問ばかりする。
- ・ 親を探しまわる。避難所を出てしまふ。
- ・ 誰にでも話しかける。
- ・ 配給の列にうまく並べないと思う。

一名 二名 九名 一名 五名 一名 一名

お母さんたちが想像した子どもたちの姿ですが、おそらくは、実際の場面、状況でもっと混乱することでしょう。

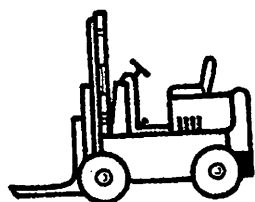
事前に絵や写真を見ながらの学習、避難路を確認しておくこと、あらかじめお子さんにカードを持たせ、その子にどの様に対応してあげたらいいのか、周りがわかるようにしておくことも大切だと話し合いました。

自閉症協会が出している防災ハンドブックも現在在庫がない状態だそうです。また、印刷して配布するというのにしました。



目の動きについて

目、脳、体の動き



お子さんの目の動きについて、考えたことはありませんか？、見たものを何であるかを頭で理解して、それに対してからだをうまく反応させるのが「視覚」の力です。視覚の働きを正しく動かすためには、はっきり見るための視力に加えて、情報を正しく集める「眼の運動機能」が大切になります。

「眼の運動機能」というのは、眼を正しく動かす働きのことです。①眼を素早く動かして目的のものをとらえる眼球の運動、②遠くにあるものから近くのものまで見たい物にピツタリと焦点を合わせる焦点合わせ、③見たいものを両眼がチームワークよく働き、立体感や距離感をつかむという働きのことです。いくら視力が良くても眼の運動機能が正しく働いていないと情報も正しく得ることができません。

小学生の場合、国語の本で文字をとばしてしまったり、行をとばしたり、どこを読んでいるのかわからなくなってしまうたり、黒板の字を写すのに時間がかかったり、算数で桁がうま

く合わせられなかったり……。数え上げればきりが無い位です。しかも、子ども自身も、回りの大人も「うまくできない」「どうしてなの?」と考えるよりも、「できない子なんだ……」ときめつけてしまっていることも多いのではないでしょうか。実は、子どもたちの学習の中での困り感が、視覚からきている場合も決して少なくはないのです。

私たちは目で見て得られた情報を脳に送ります。すると脳に以前から蓄えられている記憶や経験と照らし合わせることで情報処理をして理解したり、体を動かしたりします。このことを情報処理過程といいますが、それぞれ人によって個人差があります。

最近では、視覚の問題や情報処理過程など、お子さんの特性を知って学習に生かしていこうという動きが広がってきています。

発達検査なども実施し、一人一人のお子さんの「強み」や「弱さ」を知り、弱い部分を底上げしていこうという試みをしていく先生方もふえてきています。お母さん方の中には、お子さんの弱さを知りたくないという方もありますが、私は、その弱さの背景にある原因を探り、日々の学習に生かしていくこと

も大切だと思っています。

さて、お子さんは、どの様に見ていると思いますか?、

「さ」と「き」や「め」と「ぬ」を見まちがえることはありませんか?、枠の中に字が書けますか?、漢字の形がとれていますか?、

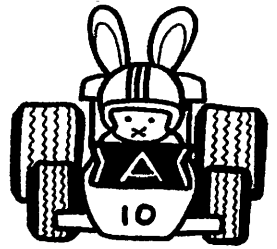
体の動きとの関係でみたとき、鉛筆は正しくもてますか?、左右をまちがえることはありませんか?、ごはんを食べるときはどうですか?、はさみはどの様に使いますか?、物にぶつかることはありませんか?、

このように、日常の中でお子さんが困っていることを一つ一つ考えてみましょう。「何でできないの?」「もっとがんばればできるのでは?」と言う前に、根本原因を探ってみましょう。目でしっかり物をとらえられないからなのか、体の軸がしっかり育っていないからなのか、情報処理の問題なのか、それとも記憶の問題なのか……?、

その中には、もしかしたら幼児期に重要だと考えずに通りすぎてしまっている事もあるかもしれません。今からでも決して遅くはありません。一緒に考えてみましょう。

子どもの発達は

遅くなった?!



「このごろ、子どもの発達は遅くなったように思わない?」「健診の時、やたらに気になる子が多いよね?」色々な市町で保健師さんに会うと、こんな会話が聞かれます。何故でしょうか?

赤ちゃんをつれているお母さんの中には、抱っこやおんぶでなく、かわいいかごの中に入れていらっしやる方もあります。なるほど……。でも、赤ちゃん時代に大切なママに抱かれるという体全体の触感覚は大丈夫?、ママに抱っこされたりおんぶされて、ママの洋服にしっかりとつかまろうとする手の動きは育たないけど大丈夫?、その手指の動きは、おはしや鉛筆の持ち方にもつながっていくんだけど……?

「うちの子、十ヶ月で歩いたんです」と得意そうにおっしゃるお母さん。ハイハイは十分しましたか?、バランスは大丈夫ですか?、基本的な体の動きは、将来、姿勢の保持につながっていきますよ。うまくバランスがとれないと、ゆっくりな

動きができず、早く動いてしまうということにもなるかもしれません。

子育てサロンに行って、お母さん同士「ママ友」ができて楽しいとおっしゃっています。でもお子さんとも向き合ってあげて下さいね。

こんな意地悪を言っていると嫌われそうですが、昔とちがって便利になった生活は、実はお子さんの体や感覚を後退させているように思っています。

紙おむつの普及は、お子さんから「快・不快」の感覚を少なくしていききました。きれいい好きのママは、お子さんが食べものをこぼしたり、お茶をベタベタにするのを許してはくれないでしょう。水道の蛇口をひねる必要もなくなったので、お子さんの手指の回旋の力は必要ありません。電灯も入室すれば自然に点灯するので、ひもを引っ張る必要もなくなりました。

ママが絵本を読まなくてもビデオという便利なものが、お子さんの好きなものをくり返し見せて子守りしてくれます。

道はきれいに舗装されて砂利道のような不安定な所はなくなっています。体のバランスをうまくとらなくても転ぶことは少なくなりました。本当に良いことづくめ(っ)です。

でも、残念ながら、子どもたちの体には異変がおきているかもしれません。暑さや寒さに弱くなっているというか、小学校で椅子に座っていられない子どもたち、すぐに疲れてしまう子どもたち、体がしゃっきりできていない子どもたちが多くなっているのでしょうか？

子どもの発達的基础になるのは、感覚と運動です。そういう基礎をしっかりとっておかないと、認知やことばの広がりにも影響してきます。手足への感覚あそび、揺れや回転のあそび、目で物をとらえること、しゃかりと聞くことなど、どれもがお子さんの発達にとって大切なものですね!!

小学生の子の目の動きのことを書きましたが、幼児期のお子さんにとって大切なことは、体をいっぱい使って遊ぶこと、そして、目で見るものは、お母さんと一緒に「共感して同じ物を見る」ということを大切にしてほしいと思います。「ワンワンだね」「フツフツ行ったね」という段階の子もあれば、一緒に絵本を見ることも大事にしたい時期もあります。一人でゲームをさせておくことは、ちょっとやめておきましょう。お母さんと「共感する」という関係づくりにかかっているだけといういですね!!

子どもたちは、それぞれの発達のちよつと先を見通した援助が大切です。今、現在のお子さんを認めてあげて、でも大人は一緒に遊びながらちよつと先を考えて、遊びの工夫をしてあげたいものです。

遊びのヒントや遊び方のヒント、ことばのかけ方など、療育機関の先生や保育者の先生から、いっぱいもらって下さい!!



◎ 支援センターでは、お子さんの発達検査や知能検査を実施しています。ご希望があれば療育機関や学校なども通じて申し込んで下さい。

◎ 大垣市社会福祉課内に発達支援担当がおられました。途切れない支援をしていくための一歩です。

◎ 次回 センター親の会は 六月十四日 九時三十分
皆さん、どうぞご参加下さい。

◎ 諸般の事情によりセンターだよりはB5版でお届けします。